

# 第3学年4組 社会科学学習指導案

平成27年10月8日(水) 第4時限 3年4組教室 岡本 昌也

## 1. 単元 これからの人権保障

### (1) 構 想

人々の生き方の多様化にともない、個人が自分の生き方や生活の仕方について自由に決定する権利、自己決定権が主張されてきている。医療では、患者が治療方法などを自ら決定できるように、あらかじめ十分な説明を受け同意する、インフォームド・コンセントが求められる。さらに、自らの死後の臓器移植についての「臓器意思表示カード」も、自己決定権を尊重するものとして重視されていっている。

では、生き方を自由に決定するということが、死に方も自分で決定することができるのか。いわゆる安楽死については様々な見解がある。まずは、安楽死には、寿命を縮めて死を早める積極的安楽死と、延命治療などをせず、自然に死をむかえる消極的安楽死(尊厳死)とに分かれる。日本の場合、前者は完全に違法として扱われているが、後者は医師の判断で治療をやめることは違法とされるものの、緩和ケア科を設置する病院が増えているように、治療のスタイルを選ぶ自由についてはある程度認められている。海外では、スイス、オランダ、ベルギーでは、「自殺ほう助」の罪を咎められなくなり、事実上「安楽死」を容認する形を取っているという国もある。自己決定権の範囲はどこまで認められるのか。果たして、「生きる」ことは義務なのか? 「死ぬ」ことは権利なのか? 今、問われている「いのちの終わり方」について、基本的人権について学んだばかりの子どもたちに投げかけていきたい。

本学級には、授業の中で積極的に挙手発言する生徒が多い。また、放課中などで社会情勢について話し合いを深める場面に遭遇したり、仲間同士遠慮なく意見をぶついたりする習慣がついてきた。中学生とはいえ、自らの将来をどのように生きたいかということを考えている最中であるため、自分や家族の生き方や生活の仕方について考えを深めることは必要であると考え。生き方をどこまで選べるかを考えることにより、自分の将来や家族の将来を見据え、自分の意見を持って生きていける人間に育てたい。事前アンケートによると、安楽死について賛成的な意見を持っている生徒が3割、否定的な意見を持っている生徒が1割、よくわからない生徒が6割ほどとなった。賛成的な意見には、「その人が望んでいるならいいのではないか」「苦しんで生きるより楽に死にたい」などという意見が多く、身近なものとして考えたことがないということがよく出ていた。家族が医療関係の仕事に就いている生徒が6人おり、現実味のある話も聞いてこられるだろう。安楽死の是非については、最終的な結論部分は明確にせず、みんなで一緒に考える過程に重きを置いた授業を展開すれば、生き方について日頃から考えを持ち、話し合ったり、伝えあったりすることの大切さに気づくことができると考える。

(2) 計画

[単元目標]

- ・人権をめぐる近年の動向について関心を高めるとともに、現代社会における人権の課題について、社会の形成者としての立場から関心を持ち、自ら人権を守り、民主的な社会生活をつくり上げようとする。
- ・現代的な人権上の課題について話し合いを行う中で、自らの主張をわかりやすく表現する。
- ・社会の変化にともなって人権の考え方が変化することに気づくとともに、自己決定権などの新しい人権が主張されるようになってきたことを理解し、その知識を身に付ける
- ・安楽死について調べるにあたって、どのような調査が有効であるか考え、実行し、調査内容を吟味して自分の主張を構成することができる。

学 習 課 題	学 習 内 容	時 間
○「新しい人権」にはどんなものがあるだろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間社会の変化にともなって新たな人権課題が生まれてきことに気づくとともに、憲法にはない「新しい人権」について理解する</li> <li>・ 環境権、知る権利、プライバシーの権利</li> <li>・ 自己決定権について事例を示す</li> <li>・ 「公共の福祉」とのバランス</li> </ul>	1
最後まで自分らしく生きるには、生き方と同じように死に方も選べるべきか		
○自分らしく生きるために特に大切にしたい権利を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に大切にしたい権利を考えることでこれまでの権利を復習する</li> <li>・ 死に方の権利を問う</li> <li>・ 安楽死の例を示す（アメリカの女性）</li> <li>・ 日本での安楽死の扱い方を知る（自殺ほう助の罪）</li> <li>・ 安楽死について率直な意見交換をする</li> <li>・ 積極的安楽死と消極的安楽死（尊厳死）の定義を知る</li> </ul>	1
○安楽死についていろいろな意見や実態を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安楽死について、考える足場となる資料の収集方法を考える</li> <li>・ 家族、知り合いに聞く</li> <li>・ 街角でインタビューをする</li> <li>・ 医者に聞く</li> <li>・ 老人ホームに行く</li> <li>・ 外国での事例を調べる</li> </ul>	2
○調べた内容を伝え合おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことを発表させながら共有する</li> <li>・ ゲストティーチャーの医師の話聞く</li> <li>・ 次時の課題を考える</li> </ul>	1
○「安楽死を法的に認めるべき」という意見に賛成か反対か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人生の最期の在り方を自分で決めることの大切さ</li> <li>・ 家族の側に立った主張</li> <li>・ 生きていること自体が尊い</li> <li>・ いろんな人との関わりで生きているわけだから、自分だけの命ではない</li> <li>・ 家族会議を開き、家族の生き方について話し合うことを提案する</li> </ul>	1 (本時)
○家族会議の報告をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族会議の報告</li> <li>・ インフォームドコンセント</li> <li>・ ドナーカード</li> </ul>	1

## 2 本時の学習指導

### (1) 目標

- ① 社会と人権とのかかわりや人権保障への取り組みの現状などについて多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現する。
- ② 社会の形成者の一人として人権を守り、民主的な社会をつくり上げようとする態度を育てる。

### (2) 目標を達成するための手立て

- ① 自分の意見に対し明確となる根拠を提示させ、自分の考えに自信を持って発言させる。(活動3)
- ② 身近な社会参画を実行するため、家族会議の提案をする。(活動5)

### (3) 展開

段階	生徒の活動	教師の働きかけと評価
導入 4	1. 安楽死を法的に認めてよいか今の意見を4段階で確認する。 ・強く賛成 ・どちらかという賛成 ・どちらかという反対 ・強く反対	・席自体は2分割で進めるが、立場については4段階で選択させ、同じ賛成、反対の立場でも違いを持たせる。 ・机を向かい合わせる形とさせ、話し合いの準備をする。
問題 1	2. 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">安楽死を法的に認めてよいか</div>	・本時の学習課題を書く。
追究 40	3. 安楽死を法的に認めてよいか話し合う。(賛成) ・人生の最後の在り方を自分自身で決めることができる ・自己決定権の尊重 ・医師が法的に責任を問われなくなる ・オランダでは安楽死を法的に認め、その後もうまくいっている ・耐えがたい苦痛からの解放 ・医療費も安くすみ、家族の負担も減る(反対) ・診断そのものが間違っている可能性 ・自分に意志よりも家族の負担などを考え、配慮した結果死を選ぶことも ・国が法的に「死」に介入するべきではない ・命を延ばすための治療が医者の仕事であるはずなのに、死を早めるための仕事などあってよいのか ・人は生きていて自分が尊いため、安楽死・尊厳死という考え方が間違っている ・日本の国民性に合わない  4. 話し合いを終えての自分の意見を4段階で確認し、意見の変化について述べる。 ・友達の意見を聞いて考えが変わった	・根拠を明確にしなが意見と言える子を称賛する ・これまでの学習を振り返り、幸福を追求することと公共の福祉とのバランスに気づけた子を称賛する ・意見によって板書を書き分け、どの立場の意見が明確にわかるようにする。 (例)「本人・家族の心情に関わる意見」⇔「法整備の是非を問う意見」 「基本的人権(幸福の追求)に関する意見」⇔「公共の福祉とのバランスに関わる意見」 「自由に生きる権利に関する意見」⇔「医療としての立場・医者の責任に関わる意見」  ・話し合いが行き詰まりそうだったら、上のどれかにポイントを絞り、考える時間を与えながら進めていく。 ・意見が変わった子には、なぜ変わったのか、どの意見を聞いてかわったのか聞く。 ・仲間とのかかわりによって意見が変わったことを称賛する ・板書を見ながら、この話し合いでの教師の見解を話す。(見解) 命の終わりについてどこまで権利を求めていいかとても難しいし、慎重にならなければならないと思う。だからこそ、そうなる前に話し合う機会を設けることが大切。自分の命だけでも、自分ひとりが関わるものではないので、特に家族とよく話し合う必要がある。
整理 5	5. 本時の学習の感想を書く。	・分かったこと、感想をノートに書くよう指示する。 ・数名の生徒を指名して発表させる。 ・家族会を開くことを提案し、報告会をすることを予告する。

### (評価)

- ①安楽死を法的に認めることについて、自分なりの考えを発表することができたか。(活動3より)
- ②仲間の意見を聞き、自分の考えに反映させるとともに、よりよい社会をつくりあげるために人権を活かそうとすることができたか。(活動5より)